

## 臨床研究へのご協力をお願い

**【臨床研究名】** バセドウ病を原因とする潜在性甲状腺機能亢進症の予後

**【研究の意義および目的】**

潜在性甲状腺機能亢進症(軽度の機能亢進症)の原因はバセドウ病と自律性機能性甲状腺結節(プランマー病)とが大部分を占めますが、日本人におけるこれら疾患の予後に関する研究は多くありません。頻度が比較的低いことがひとつの理由かと思われます。バセドウ病は明らかな甲状腺機能亢進症に至り、そのための症状が顕著になって受診されることがほとんどです。潜在性甲状腺機能亢進症と呼ばれる軽度の機能亢進症の状態と診断されることは非常に稀です。また、このような段階で診断されたバセドウ病の患者さんの中には治療しなくても自然に改善する方が少なからず見られることが知られています。この研究の目的は過去に野口病院で診断したバセドウ病を原因とする潜在性甲状腺機能亢進症の患者さんの診療録を調査して、臨床所見と経過を調べることです。

**【対象になる方と研究の方法】**

2008年から2022年の間に初めて野口病院を受診された患者さんで、バセドウ病を原因とする潜在性甲状腺機能亢進症と診断された方が対象です。通常バセドウ病ですぐに治療が開始された患者様や、すでに他の医療機関で治療を受けていた患者様は該当しません。診療録の記録から年齢、性別、臨床所見、検査成績、治療の有無、経過などを調査します。過去の記録を遡って見せていただきますが、採血などのご負担は一切ありません。研究結果を学会や論文に発表する際には個人が特定できないようプライバシーに充分配慮いたします。

**【研究協力について】**

この研究への参加に同意をいただけない方は添付の書式でお申し出下さい。同意いただけない場合も、なんら不利益を被ることはありません。研究への参加はご自身の意志でご判断下さい。

**【研究期間】** 倫理審査委員会の承認から2024年8月までの予定

**【研究責任者】** 医療法人野口記念会野口病院 院長 村上 司

**【問い合わせ先】** 医療法人野口記念会野口病院 内分泌内科部長 西嶋由衣